**対馬　正 （つしま・ただし）**

**１、プロフィール**

詩人。早大在学中に吉江喬松、日夏耿之介の教えをうけて詩作した。日夏門下の雑誌「無軌道」（後に「葡萄」）の同人。また同人誌「葡萄の実」に参加。

＜生没＞

1908（明治41）年８月９日 ～ 1981（昭和56）年３月６日

＜代表作＞

詩集『轟々と流るるものへ』

著書『百万人の音楽－ジャズ』

＜青森との関わり＞

南津軽郡富木館村に生まれる。郷土の新聞に詩を発表。津軽、藤崎中学校、深浦小学校などの校歌を作詞。

**２、作家解説**

県立弘前中学校時代の大正11年頃、同人雑誌「草笛」（後に「塑人」）を佐々木繁らと出す。昭和元年、早大文科に入学。同年、母方の篠崎家の養子となる。４年に、文学部英文学専攻科に入学。文学部長吉江喬松博士の散文詩論に共鳴。５年に日夏耿之介教授門下の同人雑誌「無軌道」（のちに「葡萄」）の同人となり詩作に没頭。７年に吉江のすすめで準備をはじめた長編処女詩集『轟々と流るるものへ』を梓書房より刊行。題簽と叙・日夏、序文・吉江は二千字にあまる熱烈な期待を寄せている。長詩七編を収めている。この一巻で既成の詩人を 圧倒するような気概を示した。

やがて日本ビクター（株）に入社。以後半世紀会社とともに歩む。

34年創刊の同人誌｢葡萄の実｣に参加。詩・随筆・俳句を発表。宗教的心境の澄んだ作品ばかりであった。

また県内の津軽中学校、藤崎中学校、深浦小学校などの校歌を作詞。労働歌「世界をつなげた花の輪に」を作詞。著書に『百万人の音楽－ジャズ』がある。53年、弘前美術作家連盟十周年に記念講演をする。

昭和56年３月６日、鎌倉市で逝去。享年72。

**３、資料紹介**

〇『轟々と流るるものへ』

図書

1932（昭和７）年３月

長編処女詩集である。内容は「轟々と流れるるものへ」「新しき祈」（昭和３年）、「北国の歌」（４年）、「黒き鳥の群」（５年）、「超克賦」「大学よ、さらば！」（６年）からなる。この一巻で既成の詩人を圧倒する気概を示した。豪華版。